

検証機関名：\_\_\_\_\_

担当者：\_\_\_\_\_

## 検証業務に関連する付属資料

今回配布した資料は、実際の検証業務の際に必要な事項を記入した上で検証業務における付属資料として用いることができます。また、検証業務終了後に総括報告書のための集計資料としても使用しますので、最終的に OE 協会に提出していただきます。配布資料は以下の通りです。なお、業種は日本標準産業分類(平成14年3月改訂:総務省)により記入してください。

### 1. 排出源リスト

- ・排出源ごとに、対象となる排出源、数、活動境界(該当項目をチェックする)を明記する。
- ・活動量及び排出量は不確実性についても必ず表記する。不確実性は絶対値と100分率で表記する。
- ・排出源リストは、まず計画段階での内容を「計画」に記述し、検証実施後の内容を「実績」に記述する。

### 2. リスクアプローチ評価表

- ・固有リスク及び統制リスクに分けてそれぞれ評価基準に従って評価を行う。
- ・リスクアプローチ評価表は、まず計画段階での内容を「計画」に記述し、検証実施後の内容を「実績」に記述する。

### 3. リスクアプローチによる検証工数評価表

- ・1の排出源リストと2のリスクアプローチ評価表から、全体リスク、検証における重要ポイントをとりまとめ、検証計画への反映事項をとりまとめる。あわせて、検証工数評価を大中小の三段階で行う。

### 4. 各検証プロセスの工数評価表

- ・ 検証プロセスごとに要する人員、日数を計画と実施に分けて明記する。リスクアプローチにより反映させた施策は太字で記入する。
- ・ 検証終了後、計画と実績が異なった場合は、考えられる原因などを備考欄に明記する。

# 排出源リスト(計画:排出量)

検証機関名: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

検証対象企業名: \_\_\_\_\_ 業種: \_\_\_\_\_ 検証対象組織: \_\_\_\_\_ 検証対象活動: \_\_\_\_\_ 算定責任部署: \_\_\_\_\_

所在地: \_\_\_\_\_ 主なプロセス: \_\_\_\_\_ 主な設備: \_\_\_\_\_

排出源	燃料の使用	電気の使用	熱の使用	廃棄物の焼却	工業プロセス	単位発熱量		排出係数		活動量		排出量		総排出量に占める割合(%)
						Default	実測	Default	実測	購買データ	実測データ			
													1位	
													2位	
													3位	
													.	
													.	
													.	
													.	
<b>総排出量</b>														

- ・排出源について、燃料・電気・熱の使用、廃棄物の焼却または工業プロセスに該当する欄に をつける。
- ・Default とは、自主参加型国内排出量取引制度の実施ルールに示された値である。
- ・単位発熱量及び排出係数については、なぜその値を使用したかについての根拠を別添で示す。

# 排出源リスト(計画:不確実性)

検証機関名: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

検証対象企業名: \_\_\_\_\_ 業種: \_\_\_\_\_ 検証対象組織: \_\_\_\_\_ 検証対象活動: \_\_\_\_\_ 算定責任部署: \_\_\_\_\_

所在地: \_\_\_\_\_ 主なプロセス: \_\_\_\_\_ 主な設備: \_\_\_\_\_

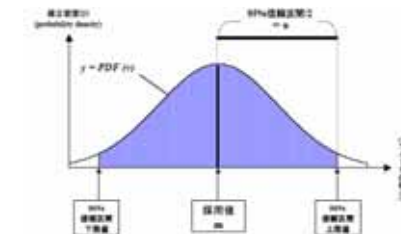
排出源	燃料の使用	電気の使用	熱の使用	廃棄物の焼却	工業プロセス	活動量に関する計測装置の不確実性 [± A (%)]		排出量 [B (t-CO <sub>2</sub> )]	排出量の不確実性 [± C (%)] C=(採用した A の値)		各排出量の不確実性が 総排出量に占める割合 [E(%)] E = (B × C) / D
						購買データ	自社測定データ				
										1位	
										2位	
										3位	
<b>総排出量(D)</b>								D =			

・排出源について、燃料・電気・熱の使用、廃棄物の焼却または工業プロセスに該当する欄に をつける。

・不確実性は活動量に関する計測装置によるものとする。

・総排出量の不確実性は下の式1に基づいて算出し、±5%未満であれば数値を確定できるものとする。

式1 総排出量の不確実性 = ( (各排出源における排出量の不確実性 × 各排出源排出量)<sup>2</sup> / 各排出源排出量



# 排出源リスト(実績:排出量)

検証機関名: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

検証対象企業名: \_\_\_\_\_ 業種: \_\_\_\_\_ 検証対象組織: \_\_\_\_\_ 検証対象活動: \_\_\_\_\_ 算定責任部署: \_\_\_\_\_

所在地: \_\_\_\_\_ 主なプロセス: \_\_\_\_\_ 主な設備: \_\_\_\_\_

排出源	燃料の使用	電気の使用	熱の使用	廃棄物の焼却	工業プロセス	単位発熱量		排出係数		活動量		排出量		総排出量に占める割合(%)
						Default	実測	Default	実測	購買データ	実測データ			
													1位	
													2位	
													3位	
													.	
													.	
													.	
													.	
<b>総排出量</b>														

- ・排出源について、燃料・電気・熱の使用、廃棄物の焼却または工業プロセスに該当する欄に をつける。
- ・Default とは、自主参加型国内排出量取引制度の実施ルールに示された値である。
- ・単位発熱量及び排出係数については、なぜその値を使用したかについての根拠を別添で示す。

# 排出源リスト(実績:不確実性)

検証機関名: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

検証対象企業名: \_\_\_\_\_ 業種: \_\_\_\_\_ 検証対象組織: \_\_\_\_\_ 検証対象活動: \_\_\_\_\_ 算定責任部署: \_\_\_\_\_

所在地: \_\_\_\_\_ 主なプロセス: \_\_\_\_\_ 主な設備: \_\_\_\_\_

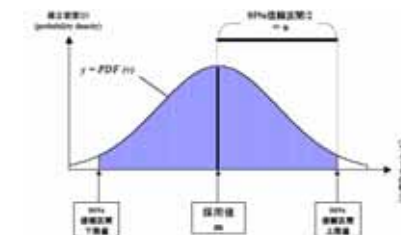
排出源	燃料の使用	電気の使用	熱の使用	廃棄物の焼却	工業プロセス	活動量に関する計測装置の不確実性 [± A (%) ]		排出量 [B (t-CO <sub>2</sub> ) ]	排出量の不確実性 [± C (%) ] C=(採用した A の値)		各排出量の不確実性が 総排出量に占める割合 [E(%) ] E = (B × C) / D
						購買データ	自社測定データ				
										1位	
										2位	
										3位	
<b>総排出量(D)</b>								D =			

・排出源について、燃料・電気・熱の使用、廃棄物の焼却または工業プロセスに該当する欄に をつける。

・不確実性は活動量に関する計測装置によるものとする。

・総排出量の不確実性は下の式1に基づいて算出し、±5%未満であれば数値を確定できるものとする。

式1 総排出量の不確実性 = ( (各排出源における排出量の不確実性 × 各排出源排出量)<sup>2</sup> / 各排出源排出量



## リスクアプローチ評価表(計画)

検証機関名: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

検証対象企業名: \_\_\_\_\_ 業種: \_\_\_\_\_ 検証対象組織: \_\_\_\_\_ 検証対象活動: \_\_\_\_\_ 算定責任部署: \_\_\_\_\_

所在地: \_\_\_\_\_ 主なプロセス: \_\_\_\_\_ 主な設備: \_\_\_\_\_

リスクアプローチ(固有リスク): 評価基準は対象範囲内で10点評価とする。

		配点基準(対象範囲に対する配点)	対象量・数	点数	根拠等 詳細を別紙添付のこと。
活動の種類		全体排出量に対するプロセス排出源からの排出量割合(%) =0(2) < 25(4) < 50(6) < 75(8) < 100(10)			
排出源数		=1(2) < 10(4) < 50(6) < 100(8) 100 (10)			
排出量(t)		< 500t(1) < 1000t(2) < 2500t(3) < 5000t(4) < 1万t(5) < 5万t(6) < 10万t(7) < 50万t(8) < 100万t(9) 100 (10)			
排出源データの デフォルト割合	排出係数	default 使用の割合 = 0% (10) < 25%(8) < 50%(6) < 75%(4) < 100%(2) =100%(0)			default 使用排出源数/全排出源数
	活動量データ	購買データ使用の割合 = 0% (10) < 25%(8) < 50%(6) < 75%(4) < 100%(2) =100%(0)			購買データ使用排出源数/全排出源数
合計					

リスクアプローチ(統制リスク): 評価基準は評価事項のリスクレベルを大中小の三段階に分け、10点評価とする。

評価事項		配点	評価	点数	入手資料等根拠 詳細を別紙添付のこと。
統一の算定基準はどのような基準であり、透明性があるか?		大(10)、中(5)、小(1)			
QA/QCの体制があるか?	役割・責任・権限が明確にされているか?	大(10)、中(5)、小(1)			
	内部監査が実施されているか?	大(10)、中(5)、小(1)			
	日常のデータが確認されているか?	大(10)、中(5)、小(1)			
モニタリング装置の点検・校正が行われているか?		大(10)、中(5)、小(1)			
集計・計算方法は自動化されているか?		大(10)、中(5)、小(1)			
合計					

大:Bad 中:不完全 小:Good

## リスクアプローチ評価表(実績)

検証機関名: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

検証対象企業名: \_\_\_\_\_ 業種: \_\_\_\_\_ 検証対象組織: \_\_\_\_\_ 検証対象活動: \_\_\_\_\_ 算定責任部署: \_\_\_\_\_

所在地: \_\_\_\_\_ 主なプロセス: \_\_\_\_\_ 主な設備: \_\_\_\_\_

リスクアプローチ(固有リスク): 評価基準は対象範囲内で10点評価とする。

		配点基準(対象範囲に対する配点)	対象量・数	点数	根拠等 詳細を別紙添付のこと。
活動の種類		全体排出量に対するプロセス排出源からの排出量割合(%) =0(2) < 25(4) < 50(6) < 75(8) < 100(10)			
排出源数		=1(2) < 10(4) < 50(6) < 100(8) 100 (10)			
排出量(t)		< 500t(1) < 1000t(2) < 2500t(3) < 5000t(4) < 1万t(5) < 5万t(6) < 10万t(7) < 50万t(8) < 100万t(9) 100 (10)			
排出源データの デフォルト割合	排出係数	default 使用の割合 = 0% (10) < 25%(8) < 50%(6) < 75%(4) < 100%(2) =100%(0)			default 使用排出源数/全排出源数
	活動量データ	購買データ使用の割合 = 0% (10) < 25%(8) < 50%(6) < 75%(4) < 100%(2) =100%(0)			購買データ使用排出源数/全排出源数
合計					

リスクアプローチ(統制リスク): 評価基準は評価事項のリスクレベルを大中小の三段階に分け、10点評価とする。

評価事項		配点	評価	点数	入手資料等根拠 詳細を別紙添付のこと。
統一の算定基準はどのような基準であり、透明性があるか?		大(10)、中(5)、小(1)			
QA/QCの体制があるか?	役割・責任・権限が明確にされているか?	大(10)、中(5)、小(1)			
	内部監査が実施されているか?	大(10)、中(5)、小(1)			
	日常のデータが確認されているか?	大(10)、中(5)、小(1)			
モニタリング装置の点検・校正が行われているか?		大(10)、中(5)、小(1)			
集計・計算方法は自動化されているか?		大(10)、中(5)、小(1)			
合計					

大:Bad 中:不完全 小:Good

## リスクアプローチによる検証工数評価表(計画)

検証機関名: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

検証対象企業名: \_\_\_\_\_ 業種: \_\_\_\_\_ 検証対象組織: \_\_\_\_\_ 検証対象活動: \_\_\_\_\_ 算定責任部署: \_\_\_\_\_

所在地: \_\_\_\_\_ 主なプロセス: \_\_\_\_\_ 主な設備: \_\_\_\_\_

1. 排出源リストから考えられるリスク

---

2. リスクアプローチ評価表から考えられるリスク

---

3. 1, 2以外に考えられるリスク

---

4. 1 ~ 3により大きいと考えられるリスク

---

5. 4. のリスクを低減するために、検証計画に反映させた施策

---

6. 検証工数へどのように反映させたか

---

該当する各リスクのレベルと工数のレベルに印をつけてください。

検証工数		統制リスク		
		小	中	大
固有リスク	小	小	小	中
	中	小	中	大
	大	中	大	\

1. ~ 6. の詳細を別紙添付のこと。また、各リスクのレベル(大中小)と工数のレベル(大中小)の評価基準と判断根拠を別紙添付のこと。

## リスクアプローチによる検証工数評価表(実績)

検証機関名: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

検証対象企業名: \_\_\_\_\_ 業種: \_\_\_\_\_ 検証対象組織: \_\_\_\_\_ 検証対象活動: \_\_\_\_\_ 算定責任部署: \_\_\_\_\_

所在地: \_\_\_\_\_ 主なプロセス: \_\_\_\_\_ 主な設備: \_\_\_\_\_

1. 排出源リストから判断されたリスク

---

2. リスクアプローチ評価表から判断されたリスク

---

3. 1, 2以外に判断されたリスク

---

4. 1 ~ 3により大きいと判断されたリスク

---

5. 4. のリスクを低減するために、検証実績に反映させた施策

---

6. 検証工数へどのように反映させたか

---

該当する各リスクのレベルと工数のレベルに印をつけてください。

検証工数		統制リスク		
		小	中	大
固有リスク	小	小	小	中
	中	小	中	大
	大	中	大	/

1. ~ 6. の詳細を別紙添付のこと。また、各リスクのレベル(大中小)と工数のレベル(大中小)の評価基準と判断根拠を別紙添付のこと。

## 各検証プロセスにおける工数評価表

検証機関名: \_\_\_\_\_ 担当者: \_\_\_\_\_

検証対象企業名: \_\_\_\_\_ 業種: \_\_\_\_\_ 検証対象組織: \_\_\_\_\_ 検証対象活動: \_\_\_\_\_ 算定責任部署: \_\_\_\_\_

所在地: \_\_\_\_\_ 主なプロセス: \_\_\_\_\_ 主な設備: \_\_\_\_\_

検証プロセス	計画			反映させた 施策	実績			備考欄 (計画と実施で異なった場合の原因等)
	人数(担当者、人)	日数(日)	人数×日数		人数(担当者、人)	日数(日)	人数×日数	
契約								
事前調査								
検証計画								
文書等による検証								
現地訪問検証								
判定								
検証報告書作成								
合計								
内訳	A 合計							
	B 合計							
	C 合計							

- ・ 人数は検証プロセスの担当者別に明記する。担当者は A = 事務員、B = 審査員、C = 判定員と定義する。
- ・ 日数は 1 日 = 8 時間と定義し、四捨五入により 0.1 単位で表記する。
- ・ 「文書等による検証」は検証機関での作業プロセスとする。
- ・ 反映させた施策を太字で記入する。